

慶応三年八月八日より慶応三年八月十四日まで

P8310707 right

山口(駿)仏公使引合筋、相済上京急げ立よる、仏国船退帆、右に付当地出張別手組引上の段届に来る

九日丑 朝雨乍晴

暖度八十九度(撰氏三十二度)

添田来り、近日一と先づ帰坂いたし旨、御場所見廻る、西国古往還見置として佐次、清七出立為致候

十日寅 晴

同八十八度(撰氏三十一度)

御場所見廻る

十一日卯 晴

斉藤(六)手代(小野儀)着し来り、商社模様等、伝言申聞る不面、寺僧へ次へとて魚■尾贈し旨窪田治部より

暑見舞状届く、右寺僧へ酬うるに半紙巻束を以てす、御場所見廻る、御場所御普請入札敷云々触の義に付、兵庫詰与力呼寄相糺処判然たり、貞助病同様につき転葉の義、才輔へ謀る

P8310707 left

漢詩(七言絶句?) 客身万事易蹉馳 困□朝旨似□痂 這裡心情君看取 杞愁多勝旅愁多

十二日辰 晴雲

御場所見廻る、坂地へ御用状(入札人廻り様)内状(入札望の者取扱振等)京地小栗(総)星野(豊)(寄地□り番申上書の義)橋本(亨)(支配取人の儀に付)書状

米百。差出す(支配向取人建白式通籠書す、同役三名印書の積り也)、江府御用状届く(シール上坂の儀、但加州内状添、山口駿、橋本(亨)連名宛(掛川宿青。十一件吟味書写)加州(江連)より

過日の返書、並宅状(七月廿八日附、山本(長)須崎(常)手紙二通籠書、同断(八月二日附、黒田甲斐守賀状、福井(彦)太郎より着賀状籠書) 其他銘々私状類□四通也

十三日巳 晴

昨本の書状類拾四通、多吉郎方へ為持遣す、高松より転賀状来る、□□届く駿亨連名書状京地へ

差立方多吉へ談す、御場所見廻る、□地より帰付掛け入津いたし斉藤(源)来り緩に談十四日午 晴雲

近々シール上坂に付、坂地へ藤五郎を遣す、件々演達せしむ、斉藤六手代多久(□)来り往還附替、並山中(□右)

(○)内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。